

## I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	学校経営	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	保護者を対象とするアンケートにおいて「学校の教育方針や指導内容」「創造的・人間性豊かな生徒の育成」「健全な心身の育成」「マナーや規範意識の育成」の項目において、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせると96～98%の高い評価をいただいている。昨年度と比較して「学校の施設・設備」において評価が低い。本年度・来年度と2ヵ年計画でエアコンを設置するなど学習環境の充実を図っていききたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織と連携を大切にした教師集団</li> <li>・教科指導と部活動指導の両立</li> <li>・生徒の主体的学習態度の育成</li> <li>・危機管理を意識した安全教育</li> <li>・商業教育・工業教育の推進</li> <li>・新教育課程を見据えた対応</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画委員会</li> <li>・職員会議</li> <li>・各種委員会</li> <li>・各分掌会</li> <li>・商工専門部会</li> <li>・各学年会</li> </ul>	
6 目標達成のための具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 組織での対応・危機管理の徹底</li> <li>(2) 研修等内外の活力を利用した授業改善</li> <li>(3) 専門科に関する資格取得に向けての取組</li> <li>(4) 進路行事の充実、外部模試の実施(進学希望者)、進路実現に向けての補習の充実</li> <li>(5) 部活動、生徒指導等による人間形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒及び保護者等を対象とするアンケート</li> <li>(2) 生徒の授業評価、生徒を対象とするアンケート</li> <li>(3) 資格取得数の状況</li> <li>(4) 就職・進学状況及び生徒や保護者等を対象とするアンケート</li> <li>(5) 生徒及び保護者等を対象とするアンケート</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育活動を教職員が組織で対応し、危機管理の徹底を図る。</li> <li>(2) 研修会、研究授業、授業参観により授業改善を図るとともに、R-Timeの充実に努める。資格取得等に向けて授業、実習、補習及び工業・商業に関する部活動を充実させる。</li> <li>(3) ガイダンス・外部講師の講演等の行事、進学に向けての補習を充実させる。</li> <li>(4) 挨拶、マナーの励行と部活動の活性化に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 組織での対応、安全教育を適切に遂行することができたか。</li> <li>(2) 基礎学力の定着を図るとともに資格取得数を多くすることができたか。</li> <li>(3) 生徒の進路実現が図られているか。</li> <li>(4) 基本的な生活習慣が身に付いているか。部活動が活発であるか。</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p>
11 成果・課題	<p>○昨年度立ち上げた「Seki Shoko Company」を充実させ、生徒が地域と連携して活躍できる場を多く設けることができた。また、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の公募説明会に参加するなど、指定に向けての準備を実施できた。</p> <p>○基本的な生活習慣を身に付ける指導の徹底と、次期学習指導要領の「主体的、対話的で深い学び」の実践に向けて授業改善に取り組んだ。また、資格・検定を目標に技能・技術を身に付けるとともに、部活動にも力を入れ、魅力ある学校作りをすることができた。</p> <p>○R-timeを充実させ、基礎学力の向上を図り、大学進学希望者に対しては、商業科は進学クラスで、工業科は進学グループで対応し、進路意識の向上や学力の向上を図った。</p> <p>●課題に対して主体的な態度で取り組み、周囲と連携協力して解決に向かう力を養成する。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が連携しながら組織として一体となって、教育目標の実現を図る。</li> <li>・R-timeの授業化を継続し、生徒の基礎学力の更なる向上を図る。</li> <li>・「Seki Shoko Company」の更なる充実と、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定及び実施に向けての準備と実施を図る。</li> <li>・教職員の働き方改革の推進を図り、業務を精査して効率化を図る。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日 平成31年1月23日

## 【意見・要望・評価等】

・褒めることにより生徒の力を伸ばす指導も大切にし、自己肯定感を高めていただきたい。また、商業科・工業科が協力して地域社会や他の学校との連携をしていることはとても良いことだと思う。この地域は大学、特別支援学校、小中学校など存在する特殊な地域である。この利点を生かし、文化祭だけでなく部活動や授業等更に連携を深めていただきたい。最後に「褒め育てる」指導を忘れず、生徒に自己肯定感を持たせて卒業させて欲しい。